

IV 用語集

資源動向：魚の資源量を、過去 5 年間の推移から「増加傾向・横ばい・減少傾向」に分けて表したものをいいます。

資源水準：ある魚の資源量について、過去 20 年間以上の推移から、「高位・中位・低位」に区分したものをいいます。

卓越年級群：誕生年が同じ魚の資源を年級群といいます。魚の資源を考えると、多くは年級群ごとにその量を判断します。ある年級群が他の年級群より特に多い量となった場合、卓越年級群と呼びます。近年では、「ゴマサバ 2004 年級群」や「マイワシ 2010 年級群」が卓越年級群となりました。

CPUE：和訳すると、単位努力量あたりの採集量 (catch per unit effort) となります。日、月、年等で魚や生物の量 (漁獲量や調査の採集量) 比べる場合、その時々で、魚等をとるために費やした努力量が違うため、漁獲または採集された量を努力量で割った値です。努力量には出漁隻数、漁具を使った時間 (例えば、曳網時間)、漁具数 (例えば、かご数や立縄などの仕掛け数)、漁具を曳いた距離や面積があります。CPUE は 1 隻あたりの漁獲量、1 かごあたりの漁獲尾数、1m² の採集個体数などといった値で示し、資源量の計算やその増減を知る指標としてよく使われます。

年齢：魚の成長は水温や餌などに影響を受け、普通、春～秋にかけて成長し、冬は成長が鈍くなります。生まれてから成長し続ける鱗、骨、耳石等、硬い組織は、この成長速度が反映されながら大きくなることから、木の年輪のように 1 年周期で成長幅に違いが出ます。この違いは顕微鏡や肉眼で見ることができ、年輪として調べることができます。現在、多くの種類で精度の高い年齢査定をする場合は耳石を用いることが多いのですが、魚種によっては鱗や骨などが適している場合もあります。

成熟係数、生殖腺指数：魚の成熟状態を評価する指標で、体全体に対して、生殖腺がどのくらいの大きさになっているのかを示しています。魚の体型や生殖腺の大きさに合わせていくつかの指標がありますが、よく使われるのは GSI で、KG はさば類等で使われています。

- ・生殖腺体指数 (Gonadosomatic Index; GSI) = $(GW \div BW) \times 100$
- ・生殖腺熟度指数 (Gonad Index; KG) = $GW \div (L)^3$

※GW：生殖腺重量、BW：体重、L：全長や尾叉長

系群：ある種の中で、別々の産卵場や回遊経路を持つために異なる資源変動をする群れのことです。系群の間で魚の交流がなく、DNA レベルで違いがある場合は、「集団」という言葉を使います。集団が異なり、その違いが大きい場合、その大きさのレベルに合わせて、「亜種」や「種」など分類学的に異なる生物として扱われる場合もあります。

沖合・沿岸：沿岸域、沖合域を分ける区分は分野によって様々ですが、海岸線からの距離（～1km）、水深等（水深 30～100m、水深 50m～海岸線から 10km）、沿岸漁業の範囲（小型船舶が漁業を行う範囲）が基準になっています。本冊子では、これらの情報をまとめた、堀川・町口（2011）による「沿岸域の海域区分」に従い、以下のような区分を用いました。

- ・沿岸域：水深 0～100m、沖合域：水深 100m～。なお、沿岸域は極沿岸域（水深 0～20m）と陸棚沿岸域（水深 20～100m）に分かれる。

内湾：「幅に対して奥行きが広い湾」として定義され、明確なものではありません。環境庁は湾口の幅、奥行き、水深をもとにした数値指標で「閉鎖性海域」という言葉を定義しており、高知県では浦ノ内湾や浦戸湾が含まれます。本冊子では、閉鎖性海域である浦ノ内湾、浦戸湾に加えて、須崎湾、野見湾、宿毛湾を高知県の内湾としました。

仔魚、稚魚：一般的な海産魚は、卵からふ化したばかりの時は体の各部が未発達で、鰭も形成されていません。ふ化直後のオタマジャクシのような状態から、発育が進んで各鰭を支える筋（鰭条）の数が定数に達するまでの魚を仔魚と呼び、各鰭が完成して以降を稚魚といいます。いつまでを稚魚と呼ぶかについては明瞭な区分はなく、初回の成熟までを指す場合や、鰭は完成したものの体型・体色が成魚と異なる状態を稚魚とする考えがあります。

甲殻類の浮遊幼生：魚類の仔魚と同じように、えび類やかに類もふ化した後は親と違う姿で海の中を浮遊幼生として漂い、いせえび類では浮遊幼生の期間が 1 年以上といわれています。浮遊幼生は成長とともに姿を変え、親の姿と同じ稚エビもしくは稚ガニになると底での生活に入ります。以下に代表的なえび・かに類幼生の成長に伴う名前の変化を示します。

- ・くるまえび類
：卵→孵化→ノープリウス→ゾエア→ミシス→ポストラバ→稚エビ
- ・いせえび類（特殊な形をしているため、別の名がつけられています）
：卵→ノープリウス→孵化→フィロゾーマ→プエルルス

- ・かに類

：卵→孵化→ゾエア※→メガロパ→稚ガニ

※種苗生産されているガザミでは、ゾエアを1～4期に細分しています。

全長、尾叉長、被鱗体長、体高：魚の大きさを表すとき、魚体の前端から尾鰭を伸ばした後端までを全長、上顎前端から尾鰭の切れ込みまでを尾叉長、上顎前端から鱗で覆われた部分の後端までを被鱗体長いいます。水産資源を調べるとき、まぐろ類やさば類などでは尾叉長を、いわし類では被鱗体長をそれぞれ魚の大きさの基準として用います。一方、背腹方向にもっとも厚い部分の距離を体高といいます。

甲殻類の測定単位：魚で大きさを示す指標は全長、体長がありますが、えび・かに類は他に甲の一部分を測って指標にします。

- ・えび類でよく使われる大きさの指標

全長：頭の棘（額角）の先端から尾の中央の棘（尾節）の先端までの長さ

体長：目の後部の甲の窪み（眼窩）から尾節の先端までの長さ

頭胸甲長：眼窩から甲の上部後端までの長さ

- ・かに類でよく使われる大きさの指標

全甲幅（最大甲幅）：甲の最大の左右幅

甲幅：甲の棘のうち、最後部の棘の根元上側の左右幅

甲長：甲の棘も含んだ前後（上下）の長さ

